

東和地域支援室通信

令和4年11月号

東和総合支所地域振興課地域支援室：東和町土沢8区60 電話 41-6514(直通)

東和芸能発表会&神楽大会を開催しました

11月3日(祝)東和総合福祉センターにて、東和芸能発表会・神楽大会を開催しました。
芸能団体、鹿踊団体、神楽団体 計13団体が演目を披露し、多くの来場者を魅了しました。



第2回歴史学習 谷内地区バスツアーを開催しました

10月31日(金)、前回の浮田・毒沢・中内地区バスツアー好評につき、第2回歴史学習として谷内地区バスツアーを開催しました。
多数のご参加をいただき、晴天のもと小友神社、丹内山神社、山ノ神社、立石神社、月山神社など計6か所の石碑や御堂を巡りました。



合移住・定住ミニ情報合

令和4年度4月～10月までの東和地域移住・空き家相談結果についてお知らせします。

令和4年4月～10月	相談した人	うち市内の人	うち市外の人	
	53人	26人	27人	
前年度同期	39人	26人	13人	
令和4年4月～10月	延べ相談件数	うち来所	うち電話	その他(メール等)
	144件	35件	63件	45件
前年度同期	96件	29件	34件	33件

相談においてになる方は年々増えています。また、空き家の処理についての相談も増えています。
お手持ちの空き家について、お困りのことがありましたら、どうぞご相談ください。

【問合せ】

☎花巻市役所定住推進課定住推進係 41-3516

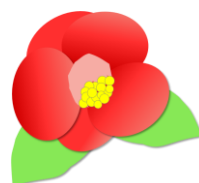
☎東和地域

受付場所：東和町土沢5区372番地 東和おもしろ作戦研究所内

TEL：29-6500 FAX：29-6501 Eメール：omoshiro@leaf.ocn.ne.jp

受付時間：月～金 9：00～12：00 担当：菅野 大石

そのほかの時間帯は留守番電話に入れていただければ折り返し連絡を差し上げます。





元地域おこし協力隊の岡田芳美さんによる連載企画。『イージュはなまき』はUターンの芳美さんとIターンの旦那さんが発起人となり立ち上げた移住者のためのプロジェクトです。『イージュ』は“移住”と“いい住まい”の意味。さらに奥田民生さんの「イージュ★ライダー」へのオマージュを込めているそうです。

こんにちは！イージュはなまきの岡田です。今回は、東和町安儀にお住まいで、埼玉県から移住されて3年ほどになる鈴木さんにお話をお聞きしました。

+. ☆+. ☆+. ☆★ インタビュー 第5弾 鈴木 健一さん ★ ☆+. ☆+. ☆+. ☆.

▼移住のきっかけは...

北上出身で、大学で山形へ。その後、東京で広告デザインの仕事をしていました。

移住のきっかけは子どものことが大きかったと思います。妻も同郷だったので、祖母たちと触れながら育てたいという思いで、移住を考え始めました。

▼花巻・東和を選んだ理由／気に入っているところ

検討段階で花巻市の移住ツアーに参加した時、スタッフの方がいい方ばかりで。

そこから東和町に決めたのは、たくさんの保育園を見学した中で、東和町の保育園は子どもたちがのびのびしている印象があったことと、萬鉄五郎や土澤アートクラフトフェアなど文化の匂いがする町だと思ったからです。

こちらは野菜も果物も、水も美味しくて！ただ、真冬に移住したため、いきなりの慣れない雪には苦労しました...！

▼お仕事のこと／そしてこれから...

現在はフリーランスのグラフィックデザイナーとして、さまざまなグラフィックデザインを中心に活動しています。移住後すぐのコロナ禍で、地域の方とのつながりも作りにくいところがありました。これからゆっくりご縁ができればと思っています。

イージュはなまきWEBでは鈴木さんのインタビュー全文がお読みいただけますのでぜひご覧ください→



鈴木さんによる
自画像イラスト

※とっても似ています



東和の生き物12か月

野鳥(サシバ)の研究で修士課程を修了した地域支援室 糸川拓真主査が東和地域で観察できる生き物について解説します。

11月 モズ (100の舌を持つ小さな猛禽)

東和の町も11月、酷暑も遠く過ぎ去り、冬の足音が聞こえるような冷え込みを感じる日が増えました。晩秋を迎える里山の草木も様々な色づきを見せております。

夏鳥は既に殆どが渡り、冬鳥が隊列を組み飛来する姿を見る機会が増えました。今回は、そんな季節の過渡期でも変わらず東和で生活を続ける野鳥、モズの紹介をします。

モズは、体長が18-20cmで、スズメより2~3まわりほど大きく丸みを帯びた体系をしております。頭は茶褐色、腹部はオレンジ色に近い褐色をしており、翼は、オスは青灰色、メスは茶褐色をしています。また、目の周りに一本黒い模様が入っているのも特徴となります。日本では留鳥で、一年中同じ場所で生活することが多いですが、寒い場所だと冬に少しだけ南や標高の低い暖かい場所に移動する場合があります。主に山林や林縁部、農地の電線などで姿を見かけることが多く、電線などに少し大きめの小鳥が尾羽をぴこぴこ動かしながら留まっている場合、モズである可能性が高いです。

また、珍しい鳥で、全体が灰色がかり腹部は白いオオモズというモズの仲間も冬鳥として渡来してきます。これからの季節運が良ければ出会えるかもしれません。

モズの名の由来については諸説ありますが、春先の繁殖期にオスが様々な鳥の声真似をすることから「百舌鳥」という名前がついたという話もあります。

モズは肉食で、昆虫やカエル、トカゲ、ネズミや小型の鳥などを捕らえて食べますが、狩りの最大の特徴として、「モズのはやにえ」という習性が挙げられます。捕獲した獲物を木の枝や鉄線に突き刺すものですが、こちらは保存食説、掴む力が弱いので食べる際に固定する説、狩りの衝動で捕えた獲物をとりあえず突き刺す説、その年の雪の降らない場所に刺して保存する説など実に様々な仮説があります。2019年に大学の研究で、はやにえが多いオスは、次の年の繁殖期での鳴き声がよく、という繁殖のための栄養食の効果を持つことが1つ発見されました。しかし、はやにえの全容はまだ謎に包まれ研究されています。モズのオスは、10月中旬から11月の秋の期間に高鳴きというけたたましい声で鳴き合い縄張り争いをするのが知られております。空気が澄み、空も青い静かな秋の季節が続きますが、耳をすませば戦うモズたちの声が遠くから聞こえてくるかもしれません。



絵：地域支援室伊藤